

平成30年度 第3回桐生市総合戦略推進委員会 議事要旨

○日 時 平成31年3月14日(木) 午後6時30分～午後7時55分

○場 所 桐生市総合福祉センター 101会議室

○出席者

【委員】	委員長：桐生市総合計画審議会会長職経験者	宝田 恭之
	副委員長：桐生商工会議所 会頭	山口 正夫
	委員：桐生商店連盟協同組合 副理事長	茂木 理亨
	桐生市農業委員会 会長	鎌塚 大作
	群馬県桐生みどり振興局 局長	大嶋 伸一
	桐生信用金庫 専務理事	佐藤 敏彦
	足利銀行 桐生支店長	海老沢 智
	群馬銀行 桐生支店長	小金沢 啓人
	(代理出席：副支店長	赤尾 憲司)
	(株)桐生タイムス社 事業推進室長	小澤 義明
	桐生市区長連絡協議会 第3区長	茂木 新司
	桐生市社会福祉協議会 常務理事	前原 太
	きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表	近藤 圭子
	NPO法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実
	桐生市医師会 理事	鈴木 康郎
	桐生市婦人団体連絡協議会 会員	齋藤 優子
	2015年からの生活交通をつくる会 会長	佐羽 宏之

<欠席者>

桐生広域森林組合 総括課長	栗原 和人
桐生刺繍商工業協同組合 理事長	村田 欽也
群馬大学理工学部 教授	板橋 英之
桐生商業高等学校 教諭 進路指導主事	関口 恵美
桐生公共職業安定所 所長	小林 悟
桐生市PTA連絡協議会 会長	増山 大祐
桐生青年会議所 理事長	葉山 勇

【桐生市】	市長	亀山 豊文
	副市長	鳥井 英雄
<事務局>	桐生市総合政策部長	和佐田 直樹
	桐生市総合政策部企画課長	田島 規宏
	桐生市総合政策部総合戦略推進担当係長	金子 秀明
	桐生市総合政策部総合戦略推進担当	馬場 秀穂
	桐生市総合政策部総合戦略推進担当	早川 翔平

【報道関係】 1社

○会議内容

1 開 会

- ・過半数以上の出席により、会議が成立することを案内

2 挨 拶

- ・市長から挨拶

3 議 題

- (1) 地方創生推進交付金を活用した新たな取組について
- (2) 次期「桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定の進め方について
- (3) 桐生市総合計画審議会からの意見照会への対応について
- (4) そ の 他

4 そ の 他

○議事概要

(1) 地方創生推進交付金を活用した新たな取組について

- ・資料1-1、1-2に基づき、事務局から説明
- ・意見なし

(2) 次期「桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定の進め方について

- ・資料2、3に基づき、事務局から説明

<意見交換>

委 員	○ 推進委員会と審議会の委員が重複していることについて、基本的な問題はないか。
事務局	○ 推進委員会では、総合戦略の策定後も継続的に委員会を運営してきた。そうした中、審議会の委員の選出に際しては、次期総合戦略と次期総合計画を一体的に策定するとともに、整合性を図る上では、推進委員会の委員と何人か重複した方が円滑な審議となることが考えられ、推進委員会と審議会の両方に所属する委員を選出したものである。
委員長	○ 推進委員会と審議会の委員が数名重複することにより、総合計画と総合戦略の状況が分かり、円滑な審議が行われると考えられる。 ○ 総合戦略を総合計画に位置付けることとなるので、重要な位置付けとなる。 ○ 事務局の説明どおりの進め方でよろしいか。
異議なし	
委員長	○ それでは、事務局の説明どおりとしたい。 ○ 総合戦略の策定期間は国に合わせ5年であるが、総合計画は4年と4年で8年となるので、策定期間がずれてしまう点が気になるが、致し方ないということで進めてまいりたい。

(3) 桐生市総合計画審議会からの意見照会への対応について

・資料4-1、4-2、4-3、5、

「桐生市総合計画審議会からの意見照会に対する意見の提出について」、

「桐生市総合計画審議会からの意見照会に対する意見提出書 様式」、

「桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策の体系図 別紙」に基づき事務局説明

<意見交換>

委員	<ul style="list-style-type: none">○ 基本目標1の(1)しごと環境の創出における、創業者の創出について、以前から話をしているが、市でインキュベーションオフィスの運営を行っているが、オフィスだけで良いのかと考える。空き店舗対策等も含めながら、インキュベーションブティックやキッチン、ファクトリーなどもあった方が良いと考えるので、検討してもらいたい。○ 基本目標4の(3)地域間連携に向けた取組では、道路整備も重要であるが、地方都市では公共交通体系が今後さらに重要になると考える。桐生には両毛線を含めた4鉄道が乗り入れており、それらを繋ぐおりひめバスにプラスし、デマンドバスやデマンドタクシーなど、限られた人だけが使えるものではなく、高齢者が買い物難民にならないよう、ユニバーサルデザイン的な、誰にでも使い勝手の良い仕組みを構築していく必要がある。旧市街地は30分も歩けば、端から端まで行けるので、徒歩や自転車で事が済むようなまちづくりを検討してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none">○ アンケート結果を見ると、漠然とした回答になっているのではないかと考える。特に中学生のアンケート結果では、親からの影響があると思うが、漠然とした都会に対する憧れといったものを持っている子供が多いと感じた。○ 先日前橋市で開催された交通関係の全国大会の出席者がエクスカーションとして上毛電気鉄道に乗り、桐生市に來訪した。來訪者は、歩行者が多いこと、MAYUやおりひめバスが結構走っていることに驚いていたので、こうしたことを桐生市はもっと自信を持って良いのではないかと考える。 さきほどのアンケート結果では、他の地域のことを知らずに回答しているのではないかと考えられることから、市民に自信を持たせることが必要ではないかと考える。○ また、よそ者がインキュベーションオフィス等を借りようとした際に、断られたという話を聞いたことがある。市民がよそ者を受け入れる姿勢を作っていく必要があると考える。そうしないと、人口も企業も増えていかないのではないかと考える。
委員	<ul style="list-style-type: none">○ 国が起業支援金・移住支援金を始める中、桐生市も起業に際しては取組を行っているところと思う。そうした取組をうまく組み合わせ、桐生市に移住したい、起業したいという人に積極的にプレゼンテーションすることが必要であり、市にはそうした取組を一元的に紹介できる体制が必要であると考えている。
委員長	<ul style="list-style-type: none">○ 中学生のアンケート結果については、やはり漠然としたイメージを持っているものと思うので、桐生のことをもっと分かってもらうことが必要であると考えている。分かった上で、一度桐生市外に出てもらい、東京等と比較してもらおうと

	<p>良い。そうすると、住むなら断然桐生市の方が贅沢な暮らしができるということが分かると思う。</p> <p>このため、分からないままに市外に出してしまうと、比較することができないので、桐生市のことを子供たちに分かってもらうことは非常に重要なことである。</p> <p>○ 先ほどの移住支援金の交付要件において、5年以上23区内に定住ということもあるので、大学院まで行った学生は6年間になり、桐生市に戻ってくると交付対象になる。こうした国の取組を活用しながら周知すれば、桐生市に戻ってくるのではないかと思う。</p> <p>そのためには、桐生市ではこんな贅沢な暮らしができるんだという顔を我々はしていないといけない。こんなところはだめだなんて言っていたら、子供たちは帰ってこない。桐生市はこんなに素晴らしく、楽しいことがあるということをお子もたちに伝えていく、そうした方向での取組みも重要である。</p>
委員	<p>○ シティブランディング戦略の中でも、桐生の良さを、改めて見つける取り組みを始めるということが掲げられている。桐生市に自信を持つということは重要であると考えます。</p> <p>○ また、ビッグデータの中には、滞在人口の状況を時間帯によって見ることができるものがある。そうしたデータを分析し、商店街の活性化や交流人口の拡大について、人の流れを踏まえた戦略を立てることも必要であると考えます。</p>
委員	<p>○ 旧市街地では、店は市街地にあるが、住まいは他にあるという実態があり、地域の連携を考えると、特に1区から10区では、地域の担い手がないという問題がある。</p> <p>桐生市では125の自治会があり、多いところでは、自治会内に3千世帯以上ある自治会が2つある。その一方で、少ないところでは、自治会と名乗ってはいるが30世帯しかない自治会がいくつかある。そうしたところで役員を選ぶというのは難しく、次の役員をどうしようかということになっている。</p> <p>また、郊外では人口は多いが、60歳代の定年で仕事を辞めた方は、これまでの地域のつながりがないため、役員にほとんどなってくれないようである。</p> <p>これまで、市街地では自営業者の方が役員を担ってくれることが多かったが、後継者がいない等の理由で事業の継続ができず、辞めてしまう方が多くなってきている。</p> <p>人口の増加といった視点とは異なるが、まちなかでの大きな問題として急に出てきた問題であり、考えていかないといけない課題である。</p>
委員長	<p>○ コミュニティを形成していく上では、自治会というのは非常に重要な組織である。</p>
委員	<p>○ 市から頼まれる仕事は年々多くなっているように感じる。そうしたことも役員を敬遠する要因であると考えられる。</p> <p>私の町会では若手がおらず、なり手がないため、私は町会長から区長まで32年間やめられないでいる状況である。</p>

委員長	<ul style="list-style-type: none">○ 私は今年度から町務員をしているが、こうした役割をもらうと、地域の人たちともう一步踏み込んだ付き合いができる。○ 市の情報を伝達する上でも、地域コミュニティは重要である。今のような意見が出てくるようになった状況も踏まえ、コミュニティを作っていくことは大変重要であることから、きちんと施策を考えていく必要がある。
-----	---

(4) そ の 他

・意見なし

以 上

4 その他

・意見なし

5 閉 会